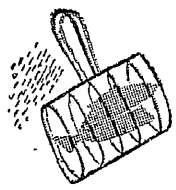
塩かけて冷や飯

—果せぬ子供との約束—

全日自労大牟田分会　野田利徳



生活つづり方

「父ちゃんもう米が……」

「……」

とたんに重苦しい気持になる。

「今日、仕事からかえつて又十キロ借つて来てね」

「うん、昼飯まではあるかい」

「ええ浩志とミヨ子とユウ子は給食ちやけんアンタと私ら三人分一杯づゝ位食べる程はある」

長男が大正校六年、長女が四年次女が一年に在学中で、その下に五才の三女と二才の次男、合計七人の家族構成である。

生活扶助の金を貰つて米代を一カ月分払うという最初の約束で、米屋さんから十キロづゝ借りて来るが、その十キロが六日間で済んでしまう。

世間の噂ではその米屋は計量が少いという。いわゆるわれわれの言葉でいうと「ハカリ」がこすい訳である。

現金があればよその米屋から毎日一升づゝでも買えるのだが、失対人夫の二七〇円では、その日麦を一キロ五十円、副食代が百円は要るから、子供が菓子類を買つて余りで醤味料（というでもわが家の場合は醤油だけであるが）など買えば米の一升買いも出来ない結果になる。

なお一週間の中、日曜のほかにもう一日の休みがあるから、休みの日の朝の副食は前の晩に量の多くて腹一杯になるような安価な里芋の親などを買つて、翌朝に持越す次第である。

休みの昼の副食は何も買えず塩をかけて一杯の冷や飯に我慢せざるを得ない。何とかしなくてはいけない、このままではどうなるかと夜になつて床の中で真剣に対策を練るが、現在の社会機構が変らない以上、われわれのしあわせは訪れ得ないと思う。

毎日の賃金が二七〇円、月二十万で五千四百円。それに生活保護の七千二百五十円（住宅扶助千円を含む）を合せても一万二千六百五十円が一カ月の全収入である。

家が自分の家でないから、家賃二千円を払つて電気、水道料が三百円、一カ月の米代五十キロ四千二百五十円を払えば、生活扶助料七千二百五十円が七百円の残金というあわれな状態である。

現在の失対の仲間達の家庭内の事情や、夫婦喧嘩の事が耳に入つて来るが、わが家にも夫婦間の危機が度々訪れる。妻が口を開けば必ず自分はボロでもよいが子供に新らしい服を一枚づつでも買つてやりたいのに、それがいつになつたら買えるようになるだろうか、という不平である。

私自身も心中いつもそう思つているのだが、妻がコボスたびに喧嘩となる訳である。

「父ちゃん、正月に服買つてね」

「うん……」

買つてやる約束の返事はするものの、餅も搗かねばならないし、計算してみると心の中は暗い。

学校にいつている三人の子供が私に服の要求をすれば、必ず五才の甘見子（スミコ）が。

「父ちゃんウチも綺麗か服ば買つてね」

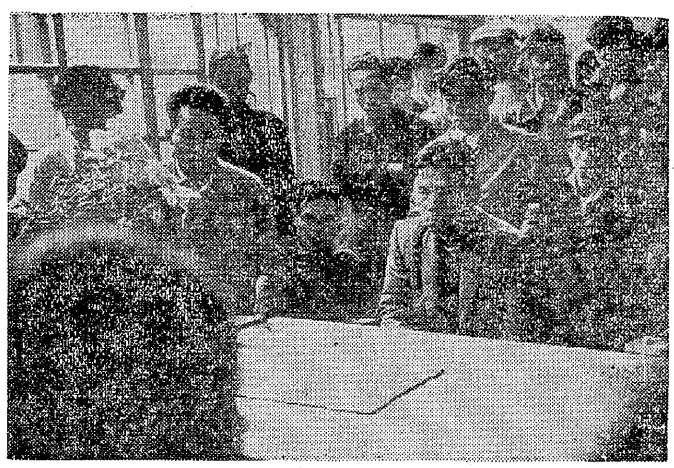
「うん」

「ボクも」

二才の金徳（ミノリ）も、まぬらぬ言葉で自分の当然の要求を提出する。

しかし私は一人思う。衣類はボロを着てもよいが、休みの日でも食物は十分にある生活状態になさねばならない。

子供のころから現在のような貧困状態だつたならば、こんなになる以前によい方法を講じていたであろうのに。いつになつたら幸せを……という炭鉱夫の歌をいつも思い出して、やつぱり淋しい心に閉ざされる。



首切り撤回を叫んで自労では、170日余の座り込みをつゞけ、職安所長との激しい団交も幾回となく重ねられた。

平和と子供の幸せを

「世界婦人集会」報告会

今年六月オーストリアの首都ウイーンで「世界婦人集会」がひらかれたが、日本からも代表が参加した。主婦会でもこの集会に代表をおくるため、カンパ運動をおこない全国婦婦協会長の只限操氏を集会におくつたが、代表団一行は集会の趣旨にそつて帰国後、各地で平和と子供たちの幸せを討議した内容を日本のすみずみにひろげている。

大会の内容を報告するため只限会長はカンパのお礼をかねて、山元で報告会をひらく計画をたてたが三池では十七日の午前十時から新港クラブでの報告を皮切りに延べ一週間十四会場でおこなわれた。十七日新港クラブ、大谷保育園、十八日岩津集会所、銀水集会場、十九日緑ガ丘講堂、小浜保育園、二十日宮原集会場、長溝保育園、二十一日勝立講堂、臼井保育園、二十二日友愛クラブ、原万田保育園、二十三日鉱友クラブ、宮内集会場と各会場でおこなわれたが、只限会長の巧みな話術とゼスチヤをまじえた報告会は、どこの会場でも非常に好評だつた。

報告会は時間の関係もあつて一会場で約一時間半、会場を爆笑させながらも、集会でのいろんな国からあつまつた婦人の真剣な話合いの内容が述べられ、どこの国のお母さんたちも平和と子供の幸せについては、国境を越えてみんなの思いは一つだということが、真剣に報告された。

現状では〝勤評〟反対

力となつた先生達の無言闘争

市教委、態度を表明

大牟田市の教育委員会は、去る十一月七日に(1)現状では勤評実施に反対　(2)勤評実施は十分な諒解、納得が必要で、強行はさけるべきである　(3)賃金カツトはされないように努力する、旨の大牟田教育委員会の態度を明らかにしたが、これは市教職組合が同委員会に出した質問に対する答えをなすものである。

問題がひとまずこの点に落ちつくまで、市教組としては並々ならぬたたかいを必要とした。その第一にあげなければならないのが、いわゆる〝無言闘争〟であろう。

この闘争は、各学校長に対するたたかいで、それぞれの校長に圧力をかけて、校長たちに勤評実施を避けさせ、さらに市教育委員会に向つて、その実施を不可能にするようにはたらきかけてもらいたいとのねがいが、根幹をなすものだつた。

大牟田市の全ての先生たちは、中小学校はもちろん高校も、去る十月二十五日を期して無言闘争に立ち上つた。その前の日までは、校長先生とも親しくつき合い、また何くれとなく朝夕のアイサツもかわし、話し合いもやつていたが、その日から先生たちは、そのような学校長に対して一言の話しも、ひとことのアイサツもしなくなつた。絶対に校長にものをいわない生活が、はじまつたのだ。

それに加えて、日宿直拒否の闘争も並行されていつた結果、校長は、全ての他の先生との間に大きな溝が掘られてゆく上に、さらに一人で日直、宿直もやらねばならなかつた。

そして、先生たちは班に分れて宿直中の校長のもとをおとづれては、勤評を出さないよう、また勤評が実施されないように教育委員会へのはたらきかけに対して、協力を求めていつた。

各学校で、校長先生がまいつてしまつたことはいうまでもない先生たちにしても人間である以上、昨日まで話しもし、アイサツをかわし、長くつきあつてきた校長に対する無言闘争は、やつぱりつらいものだつた。むしろ難行だつたろう。

しかしどの校長も、日がたつても、どれだけ頼んでも、はじめも終りもかわらずぬらりくらりの態度で、「個人的には反対だが、職掌からはどうしようもない」という見解から一歩も出ないところを見せつけられては、「いかなる組合員も、日がたつにしたがつてにくしみが湧いてくるのはどうしようもないです」とは、某先生の述懐である。

そのような無言闘争は、それでも次第次第に効きめを見せていつた。

そして、最後には当初の教育委員会からの回答となつてあらわれた教組は、ひとまず十一月七日その問題の闘争をといたが、市の全ての先生たちが右のような困難な闘争を一致団結してたたかいぬいた力は、各方面から高く評価されている。

敬老と文化祭

宮浦主婦会で開催

主婦会宮浦支部では十一月十七・十八の両日にわたつて、敬老・文化祭を市民会館ではなばなしく開催した。

両日とも各分会で練習にはげんでいた〝踊り〟を披露しヤンヤの拍手をあびた。

祭りは第一部から三部までに分かれ、評議員全員が炭婦協のうたをうたつて幕明けした。こん回の敬老会、文化祭には来外分会までもふくめ、ほとんどの分会が参加、大漁節・チヤンチキおけさ・安来節・二輪加・寸劇・おてもやんともりたくさんのプログラムが組まれていた。

二日間とも会場の市民会館は満員の盛況、楽しい雰囲気につつまれて終了した。

敬老会の初日に出席したひとりのおばあさんは

みんなとても上手ですなア。家ン仕事であげん忙しかつたに、芸人のゴツ上手だつた。一日バ喜んですごしましたタイ。

と老いの顔をよろこびにかがやかして語つていた。

西鉄バス乗務員

利用者と交流座談会

現在西鉄労組青年婦人部では明朗な職場建設に努力している。そのため利用者の苦情を述べてもらい乗務員の実態も理解してもらい、双方の仲間同志のおもいやりを深めることを目的として次の要領でバス通勤者の単産青婦部と交流座談会を開くことになつた。

一、座談会日に該当する単産青年婦人部はバス利用者を原則として男五名、女五名を参加させる

二、右の外に組合員家族の学生程度でバス利用通学者の中から二名—三名を選出し、参加させる

三、参加者は全員を単産執行部一名が掌握し午後五時まで、西鉄クラブ（出雲町東本願寺前）に集合する。

四、参加者の夕食準備は主催者側の方で行う。

五、日　程

十一月廿四日（月）　市労連
十一月廿七日（木）　東田労組
十二月　二日（火）　三鉱労組
十二月　五日（金）　市教組
十二月　六日（土）　三染労組

古物出現か

大牟田市長選を来年四月に控えて、革新陣営はいち早く細谷現市長を再度出馬させることにした。

一方保守側は大物、小物あれこれと検討したが帯に短かし、タスキに長しでホトホト困つて、大牟田保守界の大物？古物？××氏を必死にかつぎ出している。

同氏はさきの県議会で県の〇〇委員に、市長には出ませんとかいつて就任したそうであるが、保守側の公約や約束は全くあてにならないものであるが、彼も寄る年波で墓場近くなつたのでなるべく多く肩書をつけてエンマの前に出たいのだろうと巷の声。

街かど談義

賃金切下げ物語

正山町のバス停より西鉄バスに乗つたザーマスマダム四人がペチヤクチヤとおしやべりがはじまつた。

主人のゴルフの話らしい。

「宅はゴルフにこつてですね……」道具が何万円のどこそこへ行つたのと、どうしてどうして景気がよいこと。これが鉱山の幹部のマダムとするなら、給料が切下げられたこども平チヤラらしい。

マージジャンやるのは切下げられた賃金をカバーするためです。

—重　役—

少数組織人員を克服して

地方選挙へ立ち上る

合成労組

三池合成労組では、このほど定期総会を開き一九五八年度の運動方針を決定したが、この審議の中で来春の地方選挙に対する大地評の公認候補選出が特に全組合員の間で心配され紛糾した。

その問題点として組合員から出された点を集約すると、

(1)組織人員が少ないので当選困難ではないか。

(2)会社代表との対決で組織があらされはしないか。

(3)もし落選すればいままでの組合の権威と名誉が失ついする。

などであつたが、いちおうそういう心配を克服して運動方針の決定がなされたので同労組執行部は、前項のような困難をのりきるために連日職場オルグをつづけ組織の強化をはかつている。

現在同労組の大牟田市の組合員数は約六〇〇名たらずであり、家族をふくめても相当の苦しい闘いが予想され、くわえて三炭クラブに属している会社代表が来春も出馬するため、組合への切崩しもはげしくなるものと思われる。

このような見透しのうえに立つた同定期総会では、労働者の階級的な連帯性の上に立つて、選挙戦を強力に闘い抜く決意の半面、少数組織人員のため地評執行部への強い協力要請もでている。

校区連協を結成

大地評で組織化進む

大地評では今年度の運動方針で校区労働者連絡協議会結成を決定した。これは、校区の大地評参加労働者を結集し、すべての闘いに共闘の態勢をつよめ、地域社会の民主化運動の推進力となる組織づくりにのりだしたわけである。

すでに十月二十六日明治校区の結成をおこない、スタートを切つている。

とくに組織化にあたつては、警職法改憲反対闘争、勤務評定反対闘争、明治校区のような鉱害補償闘争、労働者の諸要求から起る行動地域的要求の統一行動のなかで、地域の組織づくりをすすめることが容易であり、そのうえ一般市民の協力と支持をたかめることになるのである。

来春二月には結成が終了する見込みである。三鉱労組の担当校区はつぎの通りである。

白川（本所）三里（四山）川尻（三川）諏訪（三川）歌馬南（港務）天道（宮浦）玉川（宮浦）三池（宮浦）銀水（製作）倉永（製作）上内（本所）となつている。

東部地区革農連結成

農協長の専制に抗して

かねて市内東部の通称大間山中腹に散在する岩尾開拓農協の中村節夫氏（元電化労組員）他二、三の組合員が、農協組合長の専制による村八分的な差別待遇に抗しきれず、社会党・大地評に相談がもちかけられていたが、二十一日「東部地区革新農民連盟」を結成し、横暴極まる農協組合長のボス政治と闘うことになつた。

〝新年文芸〟を募集

「みいけ」編集部では例年どおり新年文芸募集を次の要領で行いますので多数ご応募くださるよう期待いたしております

△創　作　四百字詰二十枚以内、選者＝真鍋呉夫
入選一席千五百円、二席千円、三席七百円

△詩　一人二篇以内、選者＝中野秀人
入選一席七百円、二席五百円、三席三百円

△短　歌（題、自由）五首以上十首以内　選者＝渡辺順三
入選一席五百金、二席四百円、三席三百円

△俳　句（題、自由）五句以上十句以内
選者＝栗林一石路　賞金は右に同じ

△川　柳（題、自由）五句以上十句以内
選者＝九里三作　賞金は右に同じ

△感　想　文（題、自由）主婦もふくむ　四百字詰四枚以内、編集部選　賞金は右に同じ

△兒童綴方（題、自由）四百字詰二枚以内
編集部選　賞品進呈

△写　眞（題、自由）一人三点まで
大きさはキヤビネ　編集部選
入選一席五百円、二席四百円、三席三百円
その他各種佳作にも謝礼進呈

※締切り＝十二月六日
※宛　先＝三鉱労組本部編集部および各支部教宣部
※発表＝新年号「みいけ」文芸特集号紙上
（なお、選者はいま交渉中です）